



田植え真っ盛り



両脇にバズーカーのような紙マルチを抱えた田植機に高柳場長も「戦車みたいだな(笑)」。



押さえが効いていないと、風でフワッと持ち上げられ剥がれてしまうのも紙マルチの手間がかかるところ。



紙マルチを張った上にカエルちゃんがぴよこんと乗っていました。

おかげさま農場は、「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

★田植えのラストスパートです

連日、暑い日が続いていますが、今年はさらに適度に雨が降っています。晴天が続き気温が高く、かつ適度の水分があるのは作物にとっては嬉しい状態で、作る側にとっての都合も良いものです。そんな暑い日差しの中、顔を真っ黒に日焼けさせた高柳場長は連日の田植えに大忙しです。

田んぼの一番大変な仕事は草取り。一般的には除草剤を撒きますが、高柳場長は水に溶ける特殊な紙を張りながら田植えをすることで草を抑制します。紙を張るのはコツが必要で、水が多すぎても紙が浮かんでしまいますし、少ないと紙が活着しません。また、田んぼの端に来たら紙を切ってからでないといターン出来ませんし、また再発進をする際に紙を張り直すといったように、普通の田植えより手間がかかります。このことで草がかなり抑えられるのですが、穴を空けたところや畦との隙間などは草が出るため、田植えが終わった後は、やっぱりひたすら草取りの日々となります。

無農薬田んぼはコストも手間もかかりますが、生き物を育む命の楽園となります。水中や稲につく小さな虫達、それを捕食するクモ、ザリガニ、鳥など沢山の命を育みます。もちろん、私達人間の命も育むお米さんも元気に育ちます。

そんな田植えもあともう一踏ん張り。山裾の田んぼは1枚が小さく田植えも草取りも何かと大変ですが、その分、ミネラルたっぷりの水で美味しいお米が育つと言います。今年も立派に美味しく育ちますように。

【産地情報】

◎ケールは大口注文もある程度お受け出来ます。スティックブロッコリーは月末から出荷予定です。